

マーケット・インによる流通・販売戦略

1 消費者等の理解を促進し、信頼を取り戻す

- モニタリング等による安全確保に取り組むとともに、県内外の消費者、流通関係者に「伝わる」わかりやすい情報発信を行います。
- 輸入停止や輸入規制措置を課している主要国等に対して安全確保の取組や魅力等の発信を行います。
- 認証GAPの取組について、消費者や流通関係者の認知度を高め、福島県産農林水産物への信頼を高めます。
- 地元食材や県産材の地産地消を図るため、食育や木育等による理解促進と需要拡大の取組を支援します。



GAPフェア

2 ブランディングをすすめる、魅力を高める

- マスメディアを活用した情報発信やパッケージデザインの改善等を通し、国内外の消費者等に魅力や生産者の誇りを発信します。
- オリジナルブランド「ふくしま満天堂」により戦略的に6次化商品の販路拡大を図ります。
- 森林認証の取得等や木材の利活用に資する新たな取組を支援し、県産材の需要拡大を図ります。



デザインの改良

3 新たな販路を開拓し、販売棚を拡大する

- 旬を捉えた販売フェアや東京2020大会を契機とした商談会等の実施により、販路の確保と継続した取扱いにつなげます。
- 量販店やオンラインストアによる販売促進等により、多様な販路の確保・拡大につなげます。
- 県産材を活用した付加価値の高い製品の販路拡大や木材需要とのマッチングを支援します。
- 水産エコラベル認証水産物等の販売棚の設置支援や外食産業でのフェア等により、価格の向上と販路拡大を図ります。
- 訪日外国人が首都圏の飲食店において県産農産物等に触れる機会を創出し、販路拡大を図ります。
- 米や果実、加工品等の海外マーケットへの更なる展開を図るため、海外での展示会に出展するとともに、輸出拡大に向けた環境整備を支援します。



東京2020大会を契機とした商談会の開催



量販店に常設棚設置「福島鮮魚便」

所得向上を目指した戦略的な生産活動

1 規模拡大や効率化により生産力を強化する

- 農地の大区画化や担い手へ農地の利用集積を進め、経営規模の拡大を図ります。
- ロボット・AI・高性能機械等の先端技術を活用したスマート農業や革新技術の導入により、生産性向上や経営規模の拡大を図ります。
- 牛の導入を支援し、酪農及び肉用牛の生産基盤の拡大を図ります。
- 本県を代表する野菜(きゅうり、トマト、アスパラガス)の施設化を加速的に促進し、生産量・品質の向上と長期安定出荷により強い野菜産地の拡大を図ります。
- 中・外食用米等の需要に応じた生産や輸出用米・飼料用米等の作付拡大、大豆等の導入など水田フル活用を支援します。
- 果実・花の輸出拡大に向け、生産体制の整備を支援します。
- 高性能林業機械やICT等の先端技術を活用したスマート林業の推進により、効率的な木材生産を支援します。



高性能林業機械の活用



施設化により強い野菜産地へ

2 福島ならではの価値を高め、産地の競争力を強化する

- 県オリジナル水稲品種である「福、笑い」の令和3年本格デビューに向けたPRや、登録生産者による先行栽培を進めます。
- 認証GAP「日本一」を目指し、組織的な取組を強力に推進します。
- 有機農業の取組拡大と有機農産物の流通体制整備を進めます。
- もも、ぶどう、ほんしめじ等オリジナル品種の開発と産地形成を進めます。
- ゲノミック評価を活用し、福島牛の改良の一層の促進を図ります。
- 福島大学との連携により、おいしさや機能性成分などの科学的知見を活用した産地におけるブランド化の取組を支援します。
- シャーベットアイスの活用など水産物の高鮮度・高品質化を図る技術の普及や機器整備を支援します。



新ブランド米「福、笑い」

3 地域資源の活用により中山間地域の収益力向上を図る

- 豊かな農林水産資源を活用する地域産業6次化の取組を支援します。
- 中山間地における周年雇用の営農モデルを創出します。
- おたねにんじん等の地域特産物の産地づくりと需要拡大を図ります。
- 地域材の安定供給体制の整備を支援します。
- 「ふくしま型漁業」の実現に向けて、水産資源を管理しながら、少ない労力で高収益をあげる取組を支援します。
- 都市住民による農業体験



都市住民による農業体験

生産活動を支える強固な生産基盤

1 農林水産業の復興・創生を加速する

- 農林水産分野のイノベーションを加速し、先端技術の開発実証とその普及を進めます。
- 被災した農地、ダムやため池、漁港、**ドローンによる農薬散布**、漁場、林道、海岸防災林、共同利用施設等の復旧を進めます。
- 個人や共同利用の施設、機械、漁船等の整備を進めるとともに、地域農業ビジョンに基づくほ場整備や先端技術を活用した大規模の営農モデルの実証・普及により、農林水産業の面的再開を加速します。
- 放射性物質の影響を受けた農業用ダム・ため池等の調査や森林の再生を進めます。



2 持続可能な生産構造を支える人材を育成する

- 就農支援情報の発信、受入体制の整備や雇用就農に向けたマッチング等により、新たな担い手となる新規就農者の確保・育成を図ります。
- 農業における労働力の確保を円滑に行う仕組みを構築し、雇用労力の安定確保を支援します。
- 地域農業の将来像を描く「人・農地プラン」の作成と実現に向けた取組を支援します。
- 林業の担い手の育成に向けて林業研修拠点施設の整備を進めます。
- 漁業担い手が実施する市場直売会など自ら取り組む活動を支援します。



労力確保を支援

3 生産基盤の整備を進める

- 農地の大区画化・汎用化等のほ場整備、農業用水利施設の長寿命化などを進めます。
- 間伐、伐採・再生林の一貫施業等の森林整備や、持続可能な林業経営に資する林業専用道の整備を進めます。



大区画ほ場整備

4 魅力ある農山漁村の暮らしと環境をまもる

- 日本型直接支払等を活用し、地域内外からの人材確保や交流を行いながら共同活動による地域環境やコミュニティの維持・向上を図ります。
- 鳥獣被害を軽減するため、専門職員の育成や総合的な対策を支援します。
- 農山漁村、森林の多面的機能や地域資源について情報発信を行い、体験や交流を通して地域活性化を図ります。
- 農業用ため池の改修工事やハザードマップの作成を進め、住民の安全確保等を図ります。



クロマツの植樹活動